



51 色絵四季草花図食器 幹山伝七 明治前期(19世紀) 陶磁 鉢(大)径34.0、高18.0ほか

有栖川宮家のために製作された和食器のセット。幹山伝七(1821～90)は湖東焼の出身で、明治になり京都へ移って色絵磁器の製作を始めた。国内の富裕層や海外からも注文を受けて、色鮮やかな花鳥図を精緻に描いた数々の作品を製作し、明治前期の京都を代表する製陶家となった。幹山は清水に大規模な工場を構えていたが、実用品であったためか現存する食器類は少なく、大正、昭和と時代を経るにしたがって忘れられていた。高松宮家には大鉢のほか、碗や皿、徳利など、同時期に製作されたとみられる合計540点の和食器が伝わっており、質だけでなく点数の規模からみても貴重な作品群である。



51 鉢(大)の部分

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に¹出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

若梅に撫子——旧高松宮家と伝来の品々

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 62

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社 東京美術

翻訳 横溝廣子

発行 宮内庁

平成二十五年三月二十六日発行

© 2013, The Museum of the Imperial Collections